

白ねぎ (根深ねぎ)

昔から、料理の薬味や具として万能なネギ。ネギの白い部分には、ネギオールという成分が含まれており、強い殺菌効果により風邪予防に期待できます。

4月の農作業

作型 酸性土壌に弱いので、石灰を施用する。土寄せは一度にたくさん行くと根を傷めるので、少しずつ行う。根は酸素を多く必要とするので排水溝をしっかりとしておく。

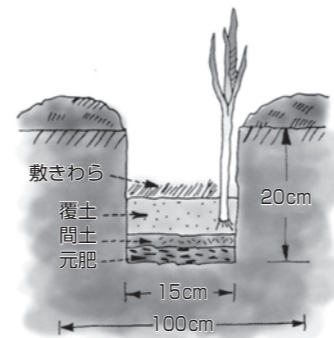
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名	
春まき	■	■	○	○	△	△	—	—	—	—	—	■	■	のどか一本

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり aあたり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 aあたり	
醗酵鶏糞	30kg
畝立時施用 (植え付けの1週間前頃)	

- 畝幅100cm、深さ15~20cmの植え溝を作る。
- 株間7~8cmに、植え溝に沿わせて苗が曲がらないように真っ直ぐに立てて植え、覆土(3cm)する。
- 耕土の浅い圃場では畝幅を広く確保し、土寄せしやすくする。



苗の準備

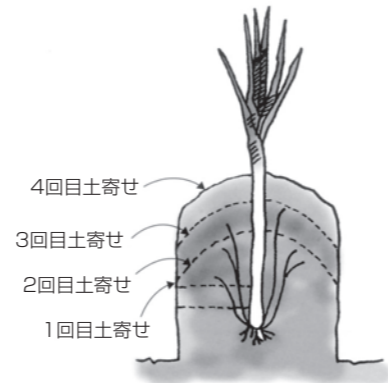
苗は直径10~12mm、全長30~50cmの中苗を利用する。

種まき

- 10cm間隔にすじまきし、薄く覆土した上に、切りわらをして灌水する。発芽したら込み合ったところを間引き、株間5cm位にする。

追肥・土寄せ

- 植え付け後、20~30日間で、4回に分けて土寄せ、追肥し、軟白部分を長くする。(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料4kg/a)
- 一度に大量の土寄せを行うと生育が悪くなるので、葉鞘の分岐点までとする。



防除

病虫害	耕種防除	薬剤防除
アザミウマ類	光反射マルチを行う 光反射テープを畝上に張る	モスピラン水溶剤(毒劇物により印鑑必要) 2,000倍 収穫7日前まで 3回以内
べと病	排水を良くする 雨よけ栽培をする	プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 収穫14日前まで 3回以内

収穫

- 収穫は11月下旬ごろより始める。

裏面はきゅうりを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.276 平成26年4月16日発行

きゅうり

夏の食卓によく見かける青々としたキュウリ。夏に不足しがちな水分の補給や利尿作用に効果があります。

4月の農作業

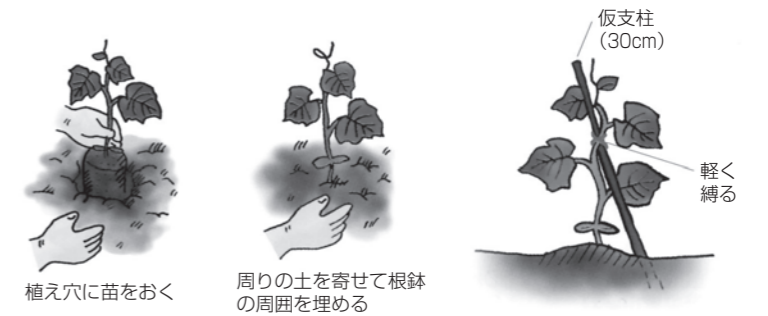
作型 育苗と直まきを組み合わせると長期間収穫できる。接ぎ木苗は土壤病害の心配が少ない。夏場の土壌乾燥を防ぐ。肥切れさせないこと。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春まき				○	△	■	■	■	■	■	■	■	時無みどり、夏すずみ、さつきみどり

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

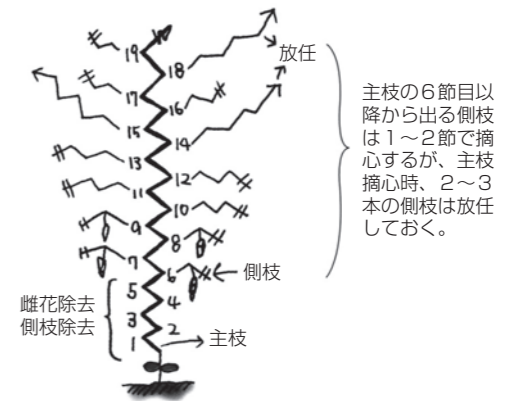
土づくり aあたり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 aあたり	
野菜専用肥料	10kg
醗酵鶏糞	30kg
畝立時施用	



- 2条植え：畝幅150cm 株間：60cm
- 本葉3~4枚の苗を植える。
- 風のない日の午前中に定植位置をやや高くして植え付ける。

整枝

- 主枝5節までの側枝、雌花は除去する。
- 主枝6節以降から出る側枝は1~2節で摘芯するが、2~3本の側枝は伸ばしておく。
- 主枝は支柱の高さで摘芯する。



追肥・敷きわら

- 収穫開始前から10日ごとに追肥する。(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5kg/a)
- 敷きわらは梅雨明け頃から厚く敷く。

防除

病虫害	耕種防除	薬剤防除
つる枯病	連作を避ける	トップジンM水和剤 1,500~2,000倍 収穫前日まで 5回以内
べと病	排水を良くする	ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 8回以内
ウリハムシ(ウリバエ)	光反射マルチを行う	マラソン乳剤 1,000倍 収穫前日まで 3回以内
ハダニ類	周辺雑草を防除する	ピラニカEW(毒劇物により印鑑必要) 2,000~3,000倍 収穫前日まで 1回
アブラムシ類	光反射マルチを行う	アドマイヤー1粒剤 1~2g/株(植穴又は株元土壌混和) 定植時 1回

収穫

- 大きくしないで早目に収穫することが、樹勢を長持ちさせるポイント。

裏面は白ねぎ(根深ねぎ)を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.276 平成26年4月16日発行